

第1回教員推薦図書（2023年5月）

危機管理学部 吉富 望 教授

◆『女王陛下のユリシーズ号』

アリスティア・マクリーン著 / 村上博基訳
早川書房（ハヤカワ文庫）



◆『戦艦武蔵』改版

吉村昭著
新潮社（新潮文庫）



この2冊は、いずれも第二次世界大戦を舞台とする海洋小説で、「軍艦」と「人々」が主人公ですが、読後感が異なるので、是非、2冊とも読んでみてください。

『女王陛下のユリシーズ号』は、架空の英国海軍軍艦ユリシーズ号と、それに乗組んだ「人々」を描く物語です。「人々」は、様々な想いを抱えながら厳寒の北極海でドイツ軍のみならず厳しい自然とも戦いますが、絶望的な環境で戦い続ける「人々」を乗せた無機質の「軍艦」が「人々」に暖かく寄り添っているように感じられます。

一方の『戦艦武蔵』は、実在した日本海軍の大和型戦艦の2番艦で、1944年10月にフィリピン近海で米軍に撃沈されました。秘密裏に建造されたこの巨大な「軍艦」には想いを抱く多くの「人々」が関係していますが、「軍艦」自体が意思を持ち、「人々」の想いを顧みることなく、「人々」を巻き添えにしながら傲然と生まれ、死んでいったように感じられます。